

『身分差に終わった恋を、今さらですが。』 の漫画の感想レビューに関するアンケート 調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『身分差に終わった恋を、今さらですが。』の 漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『身分差に終わった恋を、今さらですが。』を 読んだことのある10代～50代の男女20名
調査期間	2026年5月31日～2026年6月1日 2026年6月14日 2026年6月28日 2026年7月12日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/mibunsaniowattakoiwoimasaradesuga/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『身分差に終わった恋を、今さらですが。』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

10代男性	1人
10代女性	0人
20代男性	0人
20代女性	0人
30代男性	6人
30代女性	0人
40代男性	0人
40代女性	0人
50代男性	13人
50代女性	0人

Q2:『身分差に終わった恋を、今さらですが。』の感想を教えてください。

1話	何とも間の悪い話だなと思いました。オリヴィアは母国へ戻ったとはいえ、その顔が国中に広く知れ渡っているわけではありません。一般の人々からすれば、酒場に美しい看板娘が現れた程度の認識だったでしょう。実際、普通の客ばかりであれば、彼女の正体が疑われることもなく平穏な日々を送っていたはずで。しかし、よりにもよって常連客の中に王国騎士団の団員がいました。王国騎士団に所属する人間であれば、王女だったオリヴィアの顔を見る機会はいくらでもあったはずで。そのため、彼女の立ち振る舞いや容姿に既視感を覚えるのも不思議ではありません。その結果、王女というあだ名まで付けられてしまうことになりました。オリヴィアの不運というべきか、運命のいたずらというべきか、本当に間が悪かったなと感じる展開でした。
1話	絵が無茶苦茶上手いってわけじゃないんですけど、ほどよいコメディ感が絵に合っていてかなり面白かったです。刺されたときに「また転生ものの漫画かー」と思ったのですが、刺されてもピンピンしてちょっと笑っちゃいました。元王女が酒場で働くって展開も面白いんですけど、ロイヤルさが隠しきれていないところも、設定を上手に活用してるなって思いました。ギルもオリイもキャラがいいです。
2話	他の団員達は騙せても、ギルベルトだけは騙せなかったようですね。それだけギルベルトの愛情が深かったということでしょうか。以前は身分差もあってどうにも出来なかった恋だったのですが、今回は上手くいくといいなって感じました。一方で、当のオリヴィアにはギルベルトの想いがあまり伝わっていないようにも見えます。オリヴィアの様子からすると、面倒な人に目を付けられてしまったといった感じで。今はそのような気持ちしか抱いていないオリヴィアですが、今後どのような関係に変化していくのか注目したいです。
2話	ギルは本当にオリイのことが好きだったのですね。過去の回想シーンは本当に切ない気持ちになりました。普段は表情の変わらないギルですが、本当に悔しそうにしているのが良いです。王太子のネッチョリとした雰囲気も不気味でしたし、ギルの気持ちに気づいていそうです。もしギルの気持ちに気づいていてあえて嫌がらせのように話しかけてきたのなら、相当性格が悪そうですし、今後面倒な相手になりそうです。
3話	さすがギルベルトといったところでした。長年オリヴィアの側に仕えてきただけあって、彼女の性格や行動パターンを熟知していたのでしょう。田舎へ逃げようとするまで見抜き、先回りして包囲網を敷いていたのですから、その用意周到さには感心させられました。一方で、オリヴィアの反応が気にかかります。これまでのオリヴィアは、ギルベルトの好意にまったく気付いていないように見えました。どれだけ特別扱いされても、それを恋愛感情とは結び付けずに受け流していた印象があります。だからこそ、今後オリヴィアがギルベルトにどう接していくのが気になりました。
3話	普段ムスツとした表情のクセに、オリヴィアに対する気持ちが重すぎます。あの家でずっと待っていたのかな。そのギャップがいいですよ。他の漫画とかだと、ヒロインのいないところで嬉しそうな表情をしていたり、気のあるような表情をあからさまに見せたりするヒーローが多いと思うのですが、ギルは本当に表情が変わらない。ただ、ちょっと目を細めたりして、いつもと違う表情になるときがあるのですが、その些細な変化だけで、ギルの感情が伝わってくるんですよね。特にオリヴィアが昔読んでいた本を開いている時の表情が好きです。
4話	オリヴィアが家事に不慣れなのは仕方のないことだと思います。王女として育った以上、自ら台所に立つ機会などほとんどなかったでしょうし、料理ができなくても不自然ではありません。ただ、それとゆで卵だけを食事として出すのは別問題。それならそれで、もう少し申し訳なさそうな態度をとって欲しかったです。最後に登場した女性が気になりました。ギルベルト程の男なら、好意を寄せられる女性の一人や二人いてもおかしくはありません。もし、この女性がギルベルトへ想いを寄せている人物だった場合、オリヴィアとの関係が波乱を呼ぶ可能性は十分にあるといえるでしょう。ギルベルトとオリヴィアの関係に、どのような影響を与えることになるのか注目したいです。
4話	ずっとつまらなさそうな表情をしているギルベルトですが、本当は声を上げるほど嬉しいのじゃないかな。ゆで卵とはいえ、長年想い続けた人の手料理です。ゆで卵を丁寧にスプーンで食べているところがなんだか可愛らしい。そして、最後に描かれたオリヴィアを捜索している時のギルベルトの表情が最高でした。自分の家に来てもらうことができたものの、内心ではずっとオリヴィアがいなく

	なってしまうのか心配だったのですね。騎士団長なのに、すごく繊細な心ですね。本当にギルベルトもオリヴィアもいいキャラしてます。
5話	今回の件はオリヴィアが余計な火種を作ってしまったようにも見えました。ヴェラがギルベルトを専属護衛として連れていこうとしても、現在のギルベルトは騎士団長という要職についています。単なる一騎士とは違って国の組織を預かる立場ですから、本人の意思を完全に無視して異動を強制できるとは限りません。だからこそ、ギルベルトは落ち着いて対応していたのではないのでしょうか。それをオリヴィアが台無しにしてしまったように感じました。王女オリヴィアであれば、そこまで問題にならなかったでしょう。しかし現在の彼女はあくまでも身元不明の村娘という設定です。その立場で王妃候補に対して無礼な行動をしたとなれば、厳しい処分を受けてもおかしくありません。このトラブルをどのように乗り切るのか、オリヴィアの行動に注目したいです。
5話	こんなに早く、オリヴィアのことがバレるとは思いませんでした。しばらくは、ギルとオリの二人のゆるい日常が描かれると思っていたので。それにしても、この国の王室関係者は嫌な性格の人間しかいないのでしょうか。まあ権力争いなんて、戦争のようなものですから、騙し騙されは日常茶飯事なのでしょうが。ヴェラの頭に紅茶をかけるシーンはスカッとしました。
6話	ギルベルトのファインプレーが光りました。現在のオリヴィアは一介の使用人なので、このような粗相をしては極刑も致し方なかったと思います。しかし、ギルベルトは使用人を庇ったのではなく、ヴェラのことを想っての行動だと伝えることでヴェラの怒りを鎮めました。もちろん、内心ではオリヴィアを守るための行動だったことはわかっています。それを表に出さず冷静に対処したのは見事でした。しかし、問題がすべて解決したわけではありません。というのも、ヴェラはまだギルベルトを諦めていないからです。ヴェラがさらに踏み込んできた時、ギルベルトがどのように対応するのか気になりました。
6話	ヴェラという思わぬトラブルがあったものの、そのおかげでお互いに本心を知ることができて、少し距離が縮んだのではないのでしょうか。まさか、ギルが出世していたのは、オリヴィアと一緒にいたかったからだとは。ギルは「ありがとう」と伝えたいと言っていましたが、本心は違ったのでしょうか。あの場面、オリヴィアが焦っているのが印象的でしたけど、ギルも同じくらい心のなかでは緊張していたんじゃないのでしょうか。表情が変わらないので、何を考えているのかはわかりませんけどね。ずっとオリヴィア目線で物語が進んでいますが、ギルの心の中の声も聞いてみたいです。
7話	想像していた以上に状況は悪化しているように見えます。ヴェラの行動から、アンという女性の噂が社交界で広まり始めている程度の認識でした。しかし、今回の展開を見る限り、その段階はすでに通り過ぎていくのかもしれませんが。他国の王であるルシウスが、オリヴィアが活着していることを知っているぐらいなので。オリヴィアが活着しているとすれば、ヴェラの王妃候補の話はなくなってしまう。そう考えると、オリヴィアを狙う理由は以前よりもずっと強くなっているのではないのでしょうか。ギルベルト一人でオリヴィアを守り切るのは難しいのではないかと感じました。
7話	初っ端、オリヴィアの寝癖のひどさに笑い、最後に国王の登場で驚かされた話でした。「サルでもわかる料理本」で笑わされて、今回はほっこり回なのかと安心していたら、回想シーンで、ギルの恋心が女王によって握りつぶされてしまったり、国王が出てくる不穏な雰囲気もあって、いろんな情報に振り回されました。国王のルシウスはオリヴィアが活着しているのを知っていましたし、国王が何を考えているのかも気になります。周りは敵だらけですが、ギルとオリヴィアがどのように振る舞うのが楽しみです。
8話	今回のルシウスには強い違和感を覚えました。これまでのルシウスは、女好きで自分勝手な王という印象が非常に強かっただけに、今回の言動はそのイメージと噛み合わない部分が多かったように思います。もしかすると、これまでの女性関係や奔放な振る舞いにも、表向きには見えない理由があったのかもしれませんが。
8話	ギルベルトの執務室での展開が気になります。つい先日まで、ルシウスとオリヴィアは一緒に生活をしていました。オリヴィアがどれだけ私はアンですと主張したところで、ルシウス相手には通用しないでしょう。顔を合わせれば即バレ必至なだけに、隠れ続けることができるのかどうか注目したいです。

9話	ルシウスが手紙を読み上げる場面は、本当に印象的でした。オリヴィアからすれば、これ以上ないほど恥ずかしい状況だったでしょう。この手紙は元護衛に縋りつきたくなるほど退屈だったから書いただけでした。しかし第三者が読めば、恋文だと受け取られても不思議ではありません。さらに面白いのは、オリヴィアが何も弁解できないことです。なにしろ、今のオリヴィアは死んだことになっているのですから。隠れた場所で一人もどかしそうにしているオリヴィアの姿は、緊迫した場面でありながらどこかコミカルでもあり、思わず笑ってしまいました。
9話	最後の展開が気にかかります。いくらルシウスといえど、流石にアンがオリヴィアであることに気づくのではないのでしょうか。このままアンとして切り抜けられるのか、それともついに正体が露見してしまうのか。今後の展開に注目したいです。
10話	アンと惚けるのは、やはり無理がありました。なんだかんだと夫婦だったわけですから、隠せるわけがありません。それでもなお、自分はアンだと言い張り続けるオリヴィアの姿には思わず笑ってしまいました。
10話	ルシウスが気になります。馬車の中で見せた反応を見る限り、彼が今でもオリヴィアを深く気に掛けていることは間違いないでしょう。あれほど感情を露わにして涙を流した以上、興味がなかった、嫌っていたという解釈はもはや成り立ちません、だからこそ、新たな疑問が生まれます。なぜルシウスは、これまでそのような態度を取り続けていたのでしょうか。その裏にどのような事情があったのか気になりました。

漫画全巻の部屋

by (株)グリュックス